

障がいのある皆さんへ「やさしい手」



阿賀野市には、障がいがあり、特別に支援が必要な子供さんが通学できる学校(特別支援学校)がありませんでした。

更に、新潟市が政令指定都市となったことで、新潟市の学校への入学が制限され、村上市など遠く離れた学校へ行かざるを得ませんでした。

平成18年には、保護者の皆さんから「阿賀野市に特別支援学校を設置してほしい」という要望書が市に提出されました。

この状況の中、帆苅さんは、特別支援学校が県立であることから、県への働きかけが重要と考え、県の教育担当部署へ出向き、毎日のように働きかけを行い、最終的には県知事と直接話し合いを行ったことが功を奏し、平成21年4月に阿賀野市で県立特別支援学校の設置が決まったとか。

その際、分校としてスタートしたものが、独立、そして高等部まで備えた本当の意味での、特別支援学校となりました。

また、駒林特別支援学校の開校は、県内全体に波及効果をもたらし、他市の特別支援学校開校や県庁内部の「特別支援教育係」を「特別支援推進室」に格上げするきっかけともなりました。

でも、帆苅さん本人に聞いても、「そんなことあったかもしれない、無かったかもしれない」とそっけない。皆さんの知らない、「ちょっといい話」でした。



SNSはじめました



今後の活動予定や活動内容を紹介
@hokaken1948



友達登録をして、活動内容をチェック!!
@kpr7328v



1日の活動内容や動画配信などを紹介
@hokarikenji1213



シャイでお茶目な、でも発想鋭く、

ホカリのホツコリ

ちょっといい話

スペシャル



ほかりけんじ事務所

〒959-2221 阿賀野市保田737-2
TEL: 68-5441 FAX: 68-5515

皆さんは、選挙で誰に投票するかを決める際に、何に重点を置きますか。

その最終的な決め手は、何でしょうか。

公約やマニュフェスト、政党や党派、知人からの紹介、見た目など、いろいろな要素があると思いますが、「候補者の人柄」が最後の決め手になるのではないかでしょうか。

この『ちょっといい話 スペシャル』では、日ごろあまり知られていないホカリケンジさんの人柄や縁の下で力を尽くしてきたことをエピソードとして掲載しています。

ちょっと強面なホカリさんですが、これらのエピソードから、人間ホカリケンジの知られざる魅力・優しさ・英知などをご理解いただければ幸いです。

安野川改修促進「むかし話」

平成10年に始まった安野川の改修事業は、400億円を超える大事業。毎年約17億円で事業が進められています。始まった頃の年度予算は、7億円で、このままでは完了までに40年から50年もかかるという状況でした。

当時、県では財政健全化計画により、予算が抑制されていましたが、少しでも毎年の予算を上乗せし、事業のスピードを上げる必要がありました。

ここでほかり県議から、農村整備の予算も厳しいことから、発想を転換し、安野川の改修事業は、「阿賀野市民の安全・安心に欠かせない大変に重要な事業」であり、県予算全体から捻出する『安野川特別枠』を要望するのも一つの方法ではないかというアドバイ



スをいただき、県庁内で議論・検討した結果、翌年から年間予算が上乗せ(その額約7億円)され、現在に至っています。

この『特別枠』という考え方には、まったく前例のない新しい発想であり、県庁の幹部や関係者から「ほかりスペシャル」と言われています。
(県庁OB談)

災害対策の「やさしい手」

阿賀野市を流れる安野川の改修事業に、帆苅さんが尽力したことは、よく知られています。

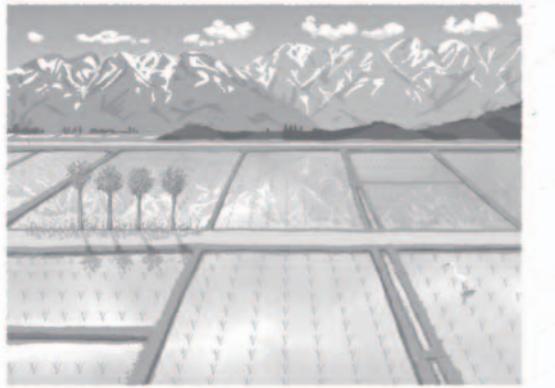
しかし、対策が必要な川は、他にもたくさんあります。特に、近年は、市の名前の由来にもなっている大河阿賀野川の水位が上がり、地域に被害をもたらし、あと少しで大災害になりかねない状況も生まれています。

まして、阿賀野川に流れ込む中小河川の災害対策は、重要です。

その一つに水原地区を流れる古川があります。この川が阿賀野川と合流する箇所には

門があり、阿賀野川が増水すると古川の水は排水できずに、周辺の田んぼなどにあふれています。

そこで、この状況の中、帆苅さんは、国・県・市が連携して対策を講じることが重要と考えるとともに、ポンプによる排水を考案し、関係機関の意見をとりまとめ、災害対策を確立したとか。



雪道で立ち往生する車に「やさしい手」



昨冬の積雪は、阿賀野市でも例年を上回り、除雪や車の運転などでご苦労された皆さんも多いこと思います。

新潟市でも平年を大きく上回る265cmの累積降雪量があり、道路は至る所で雪の壁ができ、車が渋滞しました。

そんなある日、新潟市内

の交差点で積もった雪にタイヤがスリップし動けなくなった車があり、その後ろを走っていた車の男性（背が高く強面）が、雪まみれになりながら持っていたスコップで雪をかき分け救出したとか。



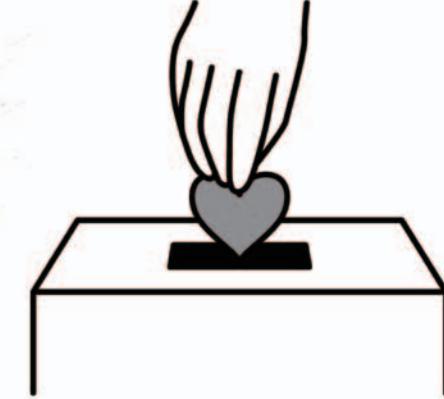
阿賀野市の財政難に「やさしい手」

合併直後の阿賀野市は、4町村の寄り合い所帯で、「サービスは高く負担は低く」という夢のようなキャッチフレーズでスタートしたことと国からの交付税や補助金が減額されたことなどから、予算不足が加速しました。

特に、平成17年度からの数年間は、財源の不足に悩まされました。(阿賀野市財政関係者の話)



そんなとき、市役所財政担当者から市財政の現状や悩みを聞いた帆苅さんは、当時の市長に代わって国や新潟県の関係部署へ働きかけました。その動きの良さ、汗の流し方、交渉力を見るにつけ、阿賀野市への愛を感じるような心血の注ぎ方だったそうです。これにより、阿賀野市へ特別交付税などの交付金が増額されたとか。



イクジイとして「やさしい手」

日頃、忙しい毎日を送っている帆苅さんですが、5人の孫に囲まれ、特に近くに住む2歳になるお孫さんをかわいがっています。



時には、一緒に近所を散歩したり、絵本を読んであげたりします。

じいじが大好きなお孫さんは、いつも膝の上で甘えているとか。こんな時は、いつもは鋭い目力の帆苅さんも目を細めやさしい表情になっている。